

ふかまちのまど

第三号 三年 五月一日
発行元 深町連合町内会
連絡先 電話六三・三三二

連合町内会活動報告

深町連合町内会
会長 天木 雅之

四月十七日(日) 深町連合町内会定例総会を町民会館にて開催いたしました。
コロナ禍の中、連合として普段通りの活動を行う事が、難しく感じた一年でした。

主な議事は次の内容です。

- ◆令和3年度 事業報告・決算報告
- ◆令和4年度 事業計画・予算案
- ◆令和4年度執行役員
会長 天木 雅之 (上組)
副会長 池田 充子 (下組)
副会長 文化部長 安藤 志保 (中組)
事務局長 高平 美穂 (下組)
監査 砂田 恭宏 (上組)
監査 石井 勇治 (上組)

令和4年度事業計画

- ①ふかまちのまど 毎月発行
- ②定例総会 四月
- ③町民運動会(中止) 五月
- ④ゲートボール大会 六月
- ⑤盆踊り・ちんこんかん太鼓踊り・やっさ祭り 八月
- ⑥敬老会 九月
- ⑦市民体育大会 十月
- ⑧おせち作り 十二月
- ⑨ビーチボール大会 一月
- ⑩河川清掃 二月
- ⑪グラウンドゴルフ大会 三月

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
前年度繰越金	1,612,548	活動費(体育部)	350,000
一般会計	0	(広報部)	50,000
執行事特別会計	54,300	行事費(文化部)	950,000
市助成金	882,800	役員活動費	50,000
利息	10	助成金	125,000
		諸費	70,000
		負担金	46,200
		事務費	20,000
		会議費	10,000
		保険料	55,000
		予備費	823,458
合計	2,549,658	合計	2,549,658

各町内会だより

上・中・下組各町内会
定期総会開催

四月十日(日) 上・中・下組の各町内会で、定期総会が開催されました。
令和4年度の主要行事は次の通りです。

項目	上組町内会	中組町内会	下組町内会
主要行事(実施予定月)	① 聴会(中止) ② 公民館横の除草作業(6月・2月)	① 十三夜行事(8月) 法要のみ	① 盆行事 太鼓踊り(8月) ② 親睦会(未定)
予算(一般会計繰越)	2,707,812円	3,484,918円	964,792円
執行部等役員	会長 天木 雅之 副会長 井本 岩野 監査 石井 勇治	会長 安藤 志保 副会長 山内 平岡 計査 丸山	会長 池田 充子 副会長 阿部 真由美 計査 中川 直子

町民会館だより

深町町民会館
館長 天木 雅之

連合の総会前に会合を行いました。

役職	氏名	所属
館長	天木 雅之	(上組)
副館長	安藤 志保	(中組)
副館長	池田 充子	(下組)
副館長	南 ちとせ	(下組)
副館長	助永 眞悟	(下組)
副館長	土居 かよ子	(中組)
副館長	屋敷 猛	(中組)

※会館の使用申し込みは
管理人 助永 眞悟
電話 6314795
に申し込み下さい。

令和3年度会館利用状況

利用回数 31回
利用人数 254人

令和4年度収支決算報告

収入の部		支出の部	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
繰越金	125,960	電気代	52,956
委託金	238,539	ガス代	24,494
運営管理費	0	水道代	34,352
委託金消費税追加金	0	灯油代	0
会場使用料	0	浄化槽管理費	102,057
利子	1	消耗品費	0
運営費助成金	30,000	事務費	0
		予備費	172,643
合計	394,500	合計	394,500

「深小だより」

新年度を迎えて

三原市立深小学校 教諭 泉 宏之介
四月一日に深小学校に赴任してきました。
今年の三月に大学を卒業したばかりで不安な気持ちでいっぱいでしたが、就任式での子供たちの明るい笑顔、教室に入った時の元気に挨拶をしながら一杯頑張ろうと思えました。
一学期間という短い間ではありますが、子どもたちのために何事にも全力で取り組みます。
地域の皆様、保護者の皆様どうぞよろしくお願いたします。

三原市立深小学校 主事 大峠 和音

四月一日から事務として勤務しています。
私は今年の三月まで大学に通って慣れず、緊張した日々を過ごしています。子どもたちと関わる機会が少ないですが、職員室に聞こえてくる明るい声や楽しそうな様子に毎日元気をもらっています。
自分自身の小学生時代を思い出しながら、毎日懐かしい気持ちにもなっています。
これから深小学校の力になれるように努めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

2021年度深町子供会会計報告

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	22,831	お楽しみ会お菓子	14,348
深町連合町内会助成金	75,000	お楽しみ会景品	3,960
深小学校PTA助成金	50,000	自宅学習支援	47,740
		卒業生記念品	45,000
		次年度繰越金	36,783
合計	147,831	合計	147,831

令和4年度深町町民会館予算書

収入の部		支出の部	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
繰越金	172,643	電気代	80,000
委託金	238,539	ガス代	30,000
運営管理費	0	水道代	35,000
委託金消費税追加金	0	灯油代	5,000
会場使用料	0	浄化槽管理費	103,000
利子	0	消耗品代	5,000
運営費助成金	30,000	事務費	1,000
		備品費	10,000
		予備費	172,182
合計	441,182	合計	441,182

謹んでお悔やみ申し上げます

村上 アヤコ 様 百四歳
(中組 峠講) 十二月三十一日
高崎 修 様 八十六歳
(中組 田屋講) 三月三十一日
小川 マス子 様 九十四歳
(中組 土居講) 四月十三日

深町各種団体五月行事予定

- ◆連合町内会 一五日
- ◆町民運動会(中止)
- ◆小学校
- ◆委員会
- ◆歯科検診
- ◆体育参観日
- ◆体育参観日予備日
- ◆心電図検査(1・4年)
- ◆放課後子ども教室
- ◆内科健診 クラブ
- ◆耳鼻科健診
- ◆如水館中学・高校
- ◆身だしなみチェック 六〇・一二日
- ◆市内大会(中) 七・八日
- ◆学年朝会(高3) 一〇日
- ◆学年朝会(高1) 学年会 一二日
- ◆生徒会選挙 一二日
- ◆学年朝会(高2) 一二日
- ◆消防訓練 一三日
- ◆中間テスト(中) 一七・一八日
- ◆中間テスト(高) 一七・一九日
- ◆創立記念式 二〇日
- ◆創立記念日 二〇日
- ◆南部地区大会(中) 二八・二九日

町内会新規入会者紹介

(上組) 上成瀬講 岩本 光彦 様
(中組) 田屋講 山内 好己 様
(中組) 千川講 前野 泰之 様
(中組) 千川講 徳重 等士 様

全国大会出場おめでとう

深町連合町内会
会長 天木 雅之

町内の皆様には、日頃より町内活動にご支援・ご協力頂きありがとうございます。
町内の皆様にお知らせいたします。
千葉県白子町で開催された、第21回全国小学生ソフトテニス大会に深町より出場されました。

中組(仲城講) 佐藤 希美 様
町内を代表し皆様と共に、心よりお慶び申し上げます。

第二中学校だより

「ふかまちの窓」

三原市立第二中学校

校長 村上 正志

「ふかまちの窓」をご覧の皆様、こんにちは。第二中学校校長村上です。

昨年引き続き、ここ第二中学校で勤めさせていただきま。どうぞよろしくお願いたします。

さて、今年度は新たな教職員を迎え、総勢41名でスタートしました。

昨年度を振り返ってみると、ICT機器の導入やそれらを活用した新たな授業づくり、見通しが見えないコロナ禍の状況が重なり、教職員一同、本当に大変な一年を過ごしました。

また、このような状況下の中、特に大変であったことは教育活動の維持・継続に向けて「学校文化をどう継承していくか」であり、常に問われ続けた1年であったように思います。

しかし、こうした学校行事の実施の検討を行うとき、いつも生徒たちの柔軟で創造的な発想や懸命に取り組み姿が私たち教職員に大きな力を与えてくれました。

伝統を受け継ぎ発展させていくことのすばらしさや大切さについて改めて気づかされ、また、その生徒たちを支えた教職員に感謝する日々を過ごすことができました。

これからも様々な困難が続くことが予想されますが、教職員一丸となって保護者、地域の方々と連携しながら学校経営を進めていきたいと考えています。

今年度から学校教育目標を「夢を持ち果敢に挑戦し、次代を担う生徒の育成」としています。

校長として明確なビジョンを教職員と共有し、家庭、地域に伝えながら、「あせらず」「じつくり」「着実に」進めてまいります。

生徒から「この学校で学んでよかった」、保護者・地域の皆様から「この学校に通わせて良かった」と言っていたいただけるように。

深町子どもを守る会

子どもをみんなで

守りましよう。

深小の子供は



○午後四時前に下校します。

※下校時間は日によって

異なることがあります。

○近づく、遠くで、みんなを

見守りましよう。

○あいさつ

声かけをましよう。

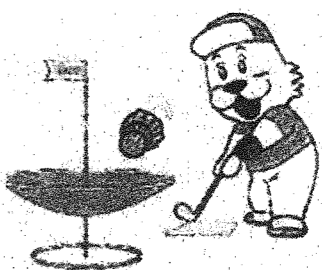
TBG協会より



三原市月例・令和四年四月

ターゲット。

パードゴルフ大会



三原市TBG月例大会が、四月九日(土)に十八名の参加で深町・城山コースにて行われました。成績は、次の通りです。

- 一位 井上 幸子
- 二位 船本 雄三
- 三位 三崎 卓夫

ベスグロ六十八

- 船本 雄三
- ホールインワン
- 船本 雄三
- 井上 幸子
- 金子 勝彦

二人戦 一位

- 船本 雄三
- 金子 勝彦

大会終了後に令和四年度の総会を開催しました。

次回の大会は、五月十四日(土)に行います。

※選手の敬称略

TBG協会

会長 船本 雄三

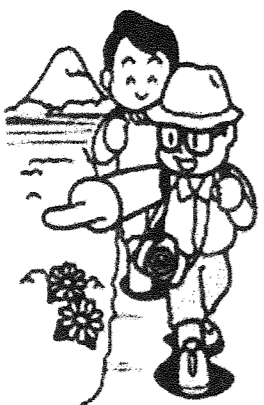
歩く会にご参加を

歩く会幹事

石井 堂照

岡山県

高梁市弥高山



月日 五月十日(火)
予備日 十二日(木)

行程

八時三〇分 深町上組公民館発

十時〇〇分 弥高山の「どうだんつじ」

探検開始

十二時〇〇分 探訪終了(昼食)

十五時〇〇分 深町上組公民館着(車)

深の里山

(続き)

「ふかまちのまど」十周年記念冊子

2004年発行

石井 静夫

4 観音様と只佐の庭

延命の泉より約三百m下った辺りから長閑な田園地帯となる。ここ八幡町美生地区は、山裾のなだらかな所にあるが、昔は荒れた山野であり、先祖が粒粒辛苦し一枚一枚耕し、千枚田の棚田となった。

この地は山裾のため川がない。梅雨の雨で田植えをしても、干天が続けば水不足となる。だから、地区のいたるところに、水を溜めておく堀や溜池(深にも多くの溜め池や野井戸がある)がみられる。これらは、朝露を踏み夕べにはカンテラをさげ、鉢巻とフンドシで四つんばいになって、一つ一つ築きあげたものだろう。田を作る以上の当時の苦勞が偲ばれる。

最近、耕地整理・圃場整備がされ、今では整然とした美田となっている。血と汗と涙の先人達のご苦勞のお蔭である。さて、山裾の一隅に高さ四m以上もある大きな観音像が立っている。名は長寿観音菩薩。

これは、この地区の只佐さんが、八〇才(傘寿)の長寿の記念に、お護りくださる観音様に報恩感謝の気持ちと、地区の安全・繁昌と人類の平和を祈願して建立されたものである。しかも独力で。

この一帯は、緑豊かな山が自然の貯水池となり、徐々に湧き出る水で米を作る。「良い米は良い水からできる」のたとえ通り、いずれは「日本一御調坂の米」として脚光を浴びる日が来ると思う。その時、観音様も大きく微笑されることだろう。

観音様より少し下がった自然歩道沿いの大小さまざまな石に、御調坂に関わる歌(奈良時代のものもある)が刻まれている。

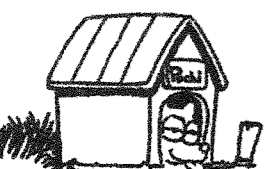
この歌碑(只佐さんが自力で造られた)を読みながら、この地の歴史と伝説の由来を知り只佐邸へ入る。

只佐の庭は、御調坂の石を中心にした枯れ山水である。庭から南をみると、遙か彼方の御調坂の緑多き山々、山の中腹を走る高速道路と車、それに近くの長寿観音像と、遠・中・近景のコントラストがおもしろく見応えがある。

この風景を朝な夕な眺められる時、只佐さんは至福の喜びを感じておられることだろう。尚、邸の一室は宝物庫となっており、只佐さんが世のため、人のために尽くされた記念品等が多く保存展示されている。

虎は死して皮を残す

人は生きて尚世のために



5 養田(そうた)から落石・亀石

辻堂から南へ下がると、地域の人々の手入れがゆき届いて、なかなか歩きやすい自然歩道がある。約五百m下った辺りの谷川と歩道の狭間に湿地帯(古老はここを養田といっていた)がある。

全国どの山岳地帯にも不思議な花畑がある。代表的なのが、白馬岳から杓子岳に至る稜線・利尻礼文の山・水芭蕉で有名な尾瀬燧ヶ岳など。この御調坂の養田にも花畑があった。どうだんつじ・れんげつじ・笹百合・水苔が群生し、眺めと香りは通る人々の心をひきつける。

特に、五月下旬から六月にかけて咲く紅薄色のどうだんつじの花が、鮮やかな新緑に点を添えて美しい。又、笹百合の豊潤な香りは通る人の心を癒してくれた。その香りを嗅ぐのを楽しみに、その季節には訪れたものだ。

残念ながら、今はその面影すらない。戦後の植物ブームに多くの人々が掘りあさり持ち帰った。高山植物は里では育たないのに。しかし、まだ人が踏み込むことが出来ない頂上近くの雑木林の中には、どうだんつじが群生し、古木もある。

そこには「山の木・山の花とらないで、撮るのは写真」の立札が見える。さて、養田を下り小山を越えたところに、空を突くような巨岩がある。

かの武蔵坊弁慶が天びん棒で石を運ぶ途中、誤って一つをここに一つを美生に落としたりという弁慶の怪力を示す逸話で「落石」と名付けられている。

ここから又少し下がったところに「鯨石」がある。今を遡る数億年前、地球の地殻変動により日本列島が勃起した時、一頭の鯨が打ち揚げられ、横たわったまま化石となったとある古老は話す。

うっそうとした雑草、雑木林の中で、今まで人目につかなかったが、自然歩道等の整備により脚光を浴び、歴史の重みを感じる石である。

鯨石より更に二百m下ったところに「亀石」がある。鶴は千年、亀は万年という。高平の森の主といわれた一匹の老亀が、享保十七年(一七三二)の大飢饉の時、餌と水を求めて下りてきた。丁度この沢に水溜りがあり、亀は飛びついて水を飲んだ瞬間絶命したと伝えられ、大飢饉の様子を伝えている。本当に亀によく似た石である。

つづく